

文字摺通信

第 101 号
2025年12月 1日
発行:文字摺歴史文化社



～歌は世につれ、世は歌につれ～



昭和の歴史は歌謡曲の歴史

第1回 歌謡曲誕生前史と歌謡曲の守谷流定義

関東大震災が歌謡曲を生んだ！という少々言葉が過ぎるでしょうか。

大正期まで日本にはレコード会社がなく、民謡や都都逸や浪曲などは外国のレコード会社ビクターやコロンビアが日本で原盤を作り、自国に持ち帰ってプレスし、日本に輸出していました。当時日本人は輸入盤を購入していたのです。ところが、1923（大正12）年9月1日、死者行方不明者10万5千人という関東大震災が起り、京浜工業地帯は壊滅し、震災による経済的打撃に加え、震災手形の処理問題が金融システムの悪化を招き「震災恐慌」が起りました。政府は国内産業の復興のため、国産品を使うようにと、輸入贅沢品に100%の関税を掛けました。レコードも贅沢品とされ、レコードの価格が高騰し、レコードが売れなくなってしまいました。そこで米資本レコード会社は昭和2年（昭和元年は一週間しかなく、実質昭和の始まりの年です）に日本ビクターを、同3年に日本コロンビアを設立し、国産品としてのレコードを販売します。そして昭和4年、歌謡曲の始まりとされる「東京行進曲」が発売され、25万枚という大ヒットになります。大正14年にラジオ放送が始まり、歌が電波に乗って全国に普及しますが、音質の点からはラジオはレコードに叶いませんでした。そのレコードが安価で手に入るようになったのは、日本にレコード会社ができることが大きな要因です。これまでのように、日本で原盤を作り、それを船でアメリカ・イギリスに持って行き、プレスしてまた船で日本に運ぶことは大変な手間ひまがかかります。日本でプレスできるようになったお蔭で、売れ筋を見ながら手早くレコードを供給できるようになったのです。それがこの大ヒットを生み出す大きな要因となりました。

東京行進曲についての詳しい解説の前に、歌謡曲とは何か、を守谷なりの定義で示します。

歌謡曲の特徴はどんなジャンルの歌も包含することです。決して排除しません。だから、青春歌謡（三田明）も、学園ソング（舟木一夫）も、股旅物も、浪曲歌謡（一節太郎）も、民謡歌謡（三橋美智也、金沢明子のイエローサブマリン音頭もここのでしょうか？）も、リズム歌謡（橋幸夫）もグループサウンズも、ブルース系（淡谷のり子・青江三奈）もフォーク系歌謡もそしてもちろん演歌もみんな歌謡曲に入ります。

そこで次のように定義します。

歌謡曲とは、**昭和時代を通じて、レコードを媒体とし、流行を目的に売り出された多様なジャンルを包含する大衆歌曲。**

歌謡曲のもう一つの特徴は“人間臭さ”です。これが時代を昭和に限った一つの理由です。楽曲の媒体がレコードからCDへ移ります。それはアナログからデジタルへの変化です。CDがLPレコードの売り上げ枚数を超すのは昭和61年のことでした。昭和文化終焉間近です。